験に使えない。そこで最も効果的な時期ということで2月目を選びました。

質問 (大阪市立大) 梅咲 直彦

1. 胸腺剔除が腫瘍発生を抑制させた理由をもう一度お教え下さい。宿主の細胞性免疫学的な検討はいかが

でしょうか。

答弁 (千葉大) 菊池 義公

1. 細胞性免疫学的な検討は行つていませんが、恐らく構成細胞の変化によるものと考えます。

第5群 絨毛性腫瘍 I (基礎) (33~38)

33. 胞状奇胎絨毛の表層超微構造について

(東京医大) 向田 利一, 新井 克巳
吉田 啓治, 相馬 広明

目的: 破奇絨毛, 胞状奇胎絨毛および部分奇胎絨毛あるいは流産時奇胎変性絨毛などの肉眼上および組織学上の鑑別は必ずしも容易でない。そのためにもこれらの囊胞絨毛表層の超微構造を観察することによつて表層上からの形態的な差異を見出せば今後の鑑別診断にも役立つ。さらに機能的差異をも併せ知ることが出来れば一層有意義である。

研究方法: 奇胎, 破奇, 部分奇胎, 流産28例の絨毛について二重固定後, 臨界点乾燥後金の蒸着を行い JSM-35型走査電顕で観察した。

成績: 1) 胞状奇胎絨毛表層所見では, 活発なジ芽の突出が多数みられるが, その形は不整で扁平状を呈したものが多く。その表層には豊富な microvilli が認められその先端は分枝したものや, 一部には融合した像が観察された。2) 部分奇胎絨毛表層所見では, ジ芽は不活発で丈も低く球状を呈し, 数も少なく Microvilli 自体も数が少なく場所によつては欠損しているところがあり, その先端は水腫様に膨化していた。3) 破奇絨毛表層所見では, ジ芽の極めて活発な突出がみられ奇胎絨毛表層に類似していた。4) 流産時奇胎変性絨毛表層所見では, ジ芽は比較的少なく, しかも Microvilli の一部欠損しているところや不揃いが目立つた。これは部分奇胎絨毛表層所見に類似する。しかもこれらの各絨毛表層に共通した所見としては, ジ芽表層にしばしば庄痕や溝状のくぼみがみられることである。以上の所見から, 胞状奇胎や破奇絨毛表層ではつねに活発なジ芽の突出がみられ, その表層は多数の Microvilli でおおわれているが, 一方部分奇胎や流産時奇胎変性絨毛表層では, ジ芽の突出もなく, 丈も低くまた Microvilli も少なく絨毛末端の活性低下が推定される。

質問 (新潟大) 半藤 保

超微表層構造上, 部分奇胎は自流と奇胎の中間に位置することを示されたが, 部分奇胎の組織発生をどのようにお考えでしょうか?

答弁 (東京医大) 向田 利一

全胞状奇胎と部分奇胎及び流産時奇胎変性絨毛とは肉眼上, 臨床所見上などで比較的に簡単に鑑別が付きませんが, 部分奇胎と流産奇胎変性絨毛とは非常にむずかしく, なかなか鑑別が付きません。今回 SEM を用いて表層微細構造を観察することによつて何らかの差異が見つかるかどうかを見た。部分奇胎の組織発生についてはわかりません。

追加答弁 (東京医大) 吉田 啓治

部分奇胎の組織発生が双胎の1児からの発生か否かについてはまだ所見が得られていないが, macro., 実体顕微鏡, HE からの diag. による部分奇胎と全奇胎とは SEM 上から明らかな差異を認めた。

質問 (東京・山田病院) 山田 康

Surface of villi の外表層にムコ蛋白カリポ多糖体等を染出証明されたら教えて下さい。

答弁

現在の所まだ鑑別していません。

34. 人とラット誘発の絨毛上皮腫との超微形態学的比較観察

(慈恵医大) 佐藤 義弘

絨毛上皮腫(以下絨腫)では, host-tumor relation の上で免疫学的あるいは移植的発生概念が考えられるので, 人の絨腫とラットに誘発した絨腫につき, 超微形態レベルでの共通の癌性々格を認めると共に, 両者における所見の差に注目した。

方法としては人の絨腫と既に報告した我々の作製したラット誘発絨腫につき, 電顕による観察し, 細胞間結合状態, 核小体, クロマチン凝集傾向, ミトコンドリアの